

なんダイヤ!?

What is this?



秋号
Autumn 2013

安全衛生委員会

「企業は人也。」
社員は会社の宝物です。その宝物を如何に保護し、磨いていくか。このことは労使が協調して取り組んでいかなければならない課題です。弊社では月に1回、定例安全衛生委員会を開催しています。健康管理や作業環境の改善などを協議し、具体的に取組んでいます。

社員の健康を守る

- 月2回のノー残業デー「帰らぬデー」の制定
※浜坂の方で「帰らぬデー」の意
- 年2回の年次有給休暇計画取得「いのちの日」の制定
- 熱中症対策やインフルエンザ対策の啓発
- 職場パトロールで防具着用の徹底や安全教育の啓発

このような取り組みを通して健康で働き続けられる環境づくりに努めています。



私の好きな浜坂ことば

この土地だからこそ、この言葉

【第1回】
晩なりました
品質管理課 神野文子

私は生まれも育ちも西宮市ですが浜坂に住むようになって33年になります。ある日、夕間暮れの街角で「晩なりました。」とあいさつをいただきました。普通では「こんばんは。」となるところですが「晩なりました。」と言われ、何のことかわからず戸惑ってしまいました。この言葉の後はどう続いていくのでしょうか。「晩なりました、今日も一日お陰さまで無事に過ごせました。ありがとうございます。明日もお互いによい一日でありますようにお祈りいたします。」という言葉が隠れているような気がします。浜坂の人情の温かさ、風土のやさしさを感じる言葉としてとても好きな言葉です。今では私が「晩なりました」とあいさつをしています。

ええとこ浜坂

Hamasaka

第5回 “あじわら小径”

浜坂市街地の北側を流れる味原川沿いに、整備された遊歩道があります。江戸から明治に建てられた古いお屋敷の、見事な石垣が続いています。石垣の様子から、施工された時代と町の経済力を窺い知る事ができます。この川沿いには、「井戸場」「水神社」「荷揚げ口」などがあり、日々の生活に重要な関わりを持っていました。初夏には蛍が飛び交い、町民の散歩コースとなっています。



社長の独り言 かずやんの Wonder Land!

50歳を目前にして、青臭いことに固執するかなと思えば、やけに人生の残り時間に思いを馳せたりしております。そんな感じが三代目社長の、まだまだ不惑な真情を思うに任せて書いてみようかと思っております。

●●●●「手土産考」●●●●

「京都の人に京都のモノを持って行くなよ。」駆け出しの頃に「常識」として当時の上司から教えられました。虎屋の羊羹を「つまらないものですが…」と差し出して、陰で「虎屋の発祥は京都。モノを知らないにも程がある。」と散々、扱き下ろされた関東人の逸話がある程です。手土産を渡すタイミングや紙袋から出して渡す決まり事等、全て職場での教育の賜物。素直だった私はすっかり洗脳され、今でもそういう事に拘りを感じております。最近では神戸起点の出張が多いので、「フロインドリーブ」のクッキー、「一番館」のチョコレート、「神戸フランチ」のチーズケーキなど、神戸ならではのものをお遣い物に選んでいます。兎にも角にも食欲の秋です。

社員の横顔

vol.02
西澤愛さんの「書道」

勤続年数：10ヶ月 書道歴：15年

CLE所属 西澤愛さんは小学校3年生から書道を始め、高校時代に「天麗書道会」に入門。最近では子育てのためお休みにしていましたが、時間を見つけてまた徐々に筆を持っているそうです。「墨を刷るのがとても楽しく心が落ち着きます。」とのこと。次の作品が楽しみです。

心落ち着く書道が大好きです




編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」。やっと秋らしくなりました。9月1日から底引き網漁が解禁になり、日本海の豊富な魚介類が港を賑やかにしています。長寿の秘訣は、好き嫌いをせず何でもいただくこと。「人は石垣、人は城」健康で活力みなぎる社員は企業の財産です。秋涼の好季節、新鮮な魚介をいただいて55期下期も頑張りましょう!

渡る風に秋を感じるようになりました。読書の秋。食欲の秋。実りの秋。新温泉町は二十世紀梨の産地でもあります。梨を栽培することは大変手間隙がかかります。冬の剪定、春の交配、摘花、袋かけ、消毒など秋の収穫まで本当にたくさんの作業があります。それぞれどれも大切な作業ですが、木の根が大きく広がり、潤沢な養分を吸収できるような肥沃な土壌を作ること、このことがもっとも大切な仕事です。何事も見えないうところがもっとも重要なんです。企業も同じです。「肥沃な土壌」は「社員一人ひとりの資質」です。人を育てることが企業の発展につながります。但馬の地でモノづくりを始めて55年。当社は、「handmade」にこだわりと誇りをもって、一つひとつ魂をこめてモノづくりをすすめています。「昭和のモノづくり」「時代錯誤」と思われるかもしれませんが、日本のモノづくりが海外に流出し、国内の産業が空洞化している現代だからこそ、社員一人ひとりが襟を正し、資質を高め、お客様のご要望に、誠実に、精一杯、魂をこめてお応えしていく。そういう姿勢を私たちの流儀として貫き通したいと考えています。

JICOトーク

社員に聞いてみよう!

弊社がレコード針を製造し始めて、半世紀が過ぎようとしています。これからのレコード針の生産について、STYグループの森田耕太郎さんに話を聞きました。

Q1. 最近レコード針の生産数が増えているようですが、何か特徴的なことがありますか?

団塊の世代が定年退職し、時間にゆとりができたんでしょうか。青春時代の音をもう一度。**レコードの音、アナログの音、ふるさとの音。**という感じですかね。SAS針のお客様、海外WEBのお客様も増えていますね。

Q2. 修理針のお客様も増えていますね。一つの針をとて大切に使用しておられるんですね。どんな修理が多いのでしょうか?

とき折々の思い出を大切にしておられるお客様が、やはり多いですね。それだけに神経を使います。失敗は許されませんからね。修理の多いものは、**カンチレバーの修理**です。縦の力には強いですが、横の力にはあまり強くありません。

Q3. 兵庫県の技能顕功賞を受賞されていますが、技術の伝承についてどう考えていますか?

まず**カートリッジの構造**をマスターしなければなりません。レコード交換針の**組立て技術**を体得し、部材の調達ができないものは**内製**しなければなりません。**旋盤の使用**も覚えて欲しいですね。**レコードの音を守ること、アナログの音を守るとは私たちの使命**ですからね。

Q4. 入社当時から今まで会社の「ここが変わった」というところはありますか?

入社当時は、**治具一つでも内製**していました。現在は、協力会社に依頼することが多くなったと思います。先輩たちはすごかったんだと改めて思います。今は、あらゆる面で厳しくなっていますが、お客様のためにもいいことだと思っています。

仲川 和志 代表取締役社長
森田 耕太郎 STYグループ所属 勤続年数47年 入社当初は鉄工部で部材の仕事を担当。

近日発売 レコード針「PHONO-KAZARI」 ディスプレイ「PHONO-AKARI」

昨年のオーディオ・ホームシアター展やビジネス・エンカレッジ・フェア2012の展示会場においてお客様からのご要望をいただき、オーディオファン待望のレコード針ディスプレイを1年かけて商品化いたしました。「PHONO-KAZARI」は、壁掛け用としてアクリルを使用しインテリア性を高めたデザインで仕上げられています。さらに「PHONO-AKARI」は、LEDライトを備え付けていますので、ほのかな灯りにレコード針が浮かび上がります。オーディオファンの皆様のご家庭やお仕事場できっと楽しんでいただけたらと思います。近日中に発売いたします。しばらくお待ち下さい。

「PHONO-KAZARI (ホノカザリ)」
「PHONO-AKARI (ホノアカリ)」
① 60cm×60cm (レコード針約360個)
② 45cm×45cm (レコード針約196個)
③ 30cm×30cm (レコード針約81個)

写真は30cm×30cm (レコード針約81個)

お客様からの サクスレター

海外のお客様から、メールや手紙などいろいろな方法でレビューやお礼のお便りを送っていただいています。その一部をご紹介します。

「父のShure V15Ⅱをまた使えるなんて...」
(2013年7月 カナダ在住 L.M様)

「昨日注文していた針を受け取りました。ただただお礼を言いたくて...、SASは本当に素晴らしい。父のShure V15Ⅱをまた使えるなんて凄く嬉しいよ。ただ同じように動かしただけじゃなくて、50年前に使われた時よりもっと良い感じで。父が亡くなって何年も経つけど、父のものをもう一度手に取って、しかもそれがちゃんと動くなんて本当に素晴らしいよ。You Tubeに動画をUPしたんだ、良かったら見てね。」
<http://bit.ly/17rUoG>

蓄音機 懐かしの音色鑑賞会

6月27日(木)午後2時から、浜坂駅前まちな歩き案内所・松籟庵で蓄音機・懐かしの音色鑑賞会を開催しました。「みすや針」の町・浜坂はよく知られていますが、大正から昭和にかけて蓄音機針の生産が国内有数であったことはあまり知られていません。もっと「針の町・浜坂」をPRしたいと浜坂製針工業会が企画しました。当日は浜坂の針の歴史や蓄音機の構造などを解説し、コロムビア116型(昭和6年製)蓄音機を使用してタンゴや歌曲、唱歌など懐かしい音色を楽しんでいただきました。

JICOを支える! 人々

JICO Wo Sasaeru Hitobito

勤続年数25年 松岡三枝 MATSUKA MIE
DDグループ所属
DDグループで、ダイヤモンド電着バーのバレル研磨を担当しています。家庭の事情もあって、非正規社員で入社して25年目を迎えました。当初はビデオクリナー部門で組立などを担当し、その後STYグループでレコード針の理め込みなどを経験して、10年前からの部署を担当しています。家を出るときは「よし」と気合を入れて出勤します。最近では若くは「よし」と気合を入れて出勤することもあるかと思いますが、自分の仕事は責任を持ってやっつけていこうと思っています。身体は続く限り頑張ります。

毎日「よし」と気合を入れてから職場に向かいます

入社して2年目です。CGグループで、ゲージコンタクトを製造しています。ダイヤモンドやコンパックスなどのチップを、シャワークにロー付けをする作業を担当しています。この作業は熱を加え過ぎるとダイヤモンドにヒビが入ったり、チップの脱落の原因になります。また寸法公差もあり、なかなか難しい作業です。職場は同年代の先輩が多く、気軽に話ができる楽しい環境です。少しでもお客様に納品していただく製品を作るべく、日々頑張っています。

勤続年数2年 森場諒 MORIBA RYO
CGグループ所属
「おもてなしの心」を「モットー」にがんばります。

同年代の先輩が多くとても楽しい職場です!

営業が綴る、日々のできごと。

営業

本部のお仕事日記

Vol.5 山田 由里恵

目配り・気配り・心配り

昨年の12月に入社した私は、今まで事務経験などまったくありませんでした。もちろん、勤務して半年経った今でも毎日が初めてのことばかり。日々、失敗と反省を繰り返しています。主な業務は受注入力、納期回答、そして電話対応や来客対応ですが、最近「きめ細かい仕事ができるかどうか」を考えるようになりました。というも、面接の際に「おもてなしの様なものづくり」という言葉を聞いたことが入社のおきっかけになったからです。相手に心を尽くす、「慮(おもんばかり)」ということですが、こういった想いで仕事が出来れば素敵だな、と思っています。私の仕事はまだ「おもてなし」の域に達していないことがほとんどですが、少しずつでもこの言葉を実現出来るよう細やかな気配りを忘れず頑張っていきます!

LET'S 社内課外活動

JICOでは社員同士のコミュニケーションや福利厚生のため社内課外活動を行っています!

営業本部では毎月末の午後6時から、「書道の時間」を設けています。この「書道の時間」は、心静かに集中するひと時をつくらうと、約3年前に始めました。上達の早い人やなかなかの人もいますが、「墨の香りと和紙の上を走る筆の感触が、とても心を豊かにしてくれる。」と好評です。全国書道展(?)をめざして、頑張っています。

うわさの JICO

外から見たJICOを語ってもらいました!

今度私もグッズ作成にチャレンジしてみますので楽しみに!

兵庫県豊岡市若松町 竹田会計登記事務所
税理士・司法書士 竹田 修様

毎年頂戴するTシャツ(ゴルフのポロシャツもゲットしましたが)のファンの一人です。毎年変わる作成テーマを楽しんでおり、ロゴにも目立たぬよう独自の工夫がされ、他人任せではない、物作りのこだわりが感じられ、年中愛用しています。3年前のものをついにつづがしてしまいましたので、10枚溜まったらロゴの部分だけで何か作ってみようと思っています。レコード針を代表に、目立たないけど堅実な物作りで世界を支えるって、ある意味憧れです。

部門STAFFのオモイ。

一生懸命がんばります。

業務部購買課 國谷 諭司

今年4月に入社し、研修終了と同時に購買課へ配属になりました。各部門で使用される部材の種類がとてもたくさんあるのに驚いています。また、数年に1度の割合で入荷する部材等もあり困惑することもあります。仕入先との納期・価格調整はもっとも重要な業務です。製造スタッフの作業効率のアップにもつながる部門なので、ゼロからのスタートですが、非常にやりがいのある部門と思っています。一つ一つの部品を把握し、仕事がスムーズにできるよう日々がんばっていきます。